

教科	地歴公民	科目	地理総合	単位数	1	年次	I 年次
使用教科書 (出版社)	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)						
副教材等 (出版社)	新詳地理資料 COMPLETE2026(帝国書院)						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

「地理る」ことを楽しもう。国際社会を主体的に生きるために必要な能力は何か？それは「地理る」力である。情報に国境がなく、生産物の多くが外国製になり、食べるものも海外産が増え、もはや1つの国だけで需給を賄うことは不可能な世の中に私たちは生きている。しかし、情報を提供する人も、製造する人も、生産する人も、みなそれぞれの土地で生活している。だからこそ、1つの国で起きた事は、良いことも悪いことも他の国に波及して影響を及ぼしてしまう。したがって、今後はより一層地理を通して世界を知って物事を考えたり議論する能力が必要なのである。

### 2. 学習の到達目標

- ① 持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
- ② グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から社会的事象や自然的事象とかかわる諸課題への対応を考察する。
- ③ 地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	○緯度・経度の基本的なし くみ、緯度の違い、時差の しきみ、時差が生活に与え る影響、球体の地球 と平面の地図、さまざまな 図法、身の回りの主題図や さまざまな一般図の表現方 法や用途、統計地図の種 類、統計地図の比較と使い 分け、GISのしきみやこれを 支える技術、GISの活用場 面について理解しており、 基礎的・基本的な技能を身 に付けている。 ○国境の種類・領域・主	○緯度・経度の基本的なし くみ、緯度の違い、時差のし きみ、時差が生活に与える 影響、球体の地球 と平面の地図、さまざまな図 法、身の回りの主題図 やさまざまな一般図の表現 方法や用途、統計地図の種 類、統計地図の比較と使い 分け、GISのしきみやこれ を支える技術、GISの活用 場面につい て、多面的・多角的に考察 し、表現している。 ○国境の種類・領域・主権、	○時差のしきみ、時差が生活に 与える影響、球体の地球と平面 の地図、さまざまな図法、身の 回りの主題図やさまざまな一般 図の表現方法や用途、統計地 図の種類、統計地図の比較と 使い分け、地理GISのしきみや これを支える技術、GISの活用 場面について、よりよい社会の 実現を視野にそこでみられる課 題を主体的に追究、解決しよう としている。 ○国境の種類・領域・主権、日 本の位置と領域、排他的経済 水域の特徴、日本の領土をめ

	<p>権、日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題、国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。</p> <p>○世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について理解している。</p> <p>○生活の舞台となる陸地、営力、変動帯と安定地域、変動帯のプレート境界、地震・火山、安定地域の平野・山地、河川がつくる地形、海岸の地形、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形と生活への影響について理解している。</p> <p>○気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について理解している。</p> <p>○大気大循環・恒常風・季節風のしくみと生活への影響について理解している。</p>	<p>日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土をめぐる問題、国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○生活の舞台となる陸地、営力、変動帯と安定地域、変動帯のプレート境界、地震・火山、安定地域の平野・山地、河川がつくる地形、海岸の地形、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形と生活への影響、について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○大気大循環・恒常風・季節風のしくみと生活への影響について多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>ぐる問題、国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○世界を結ぶ航空交通の発達、貿易を支える海上交通の発達、陸上交通の発達と変化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○生活の舞台となる陸地、営力、変動帯と安定地域、変動帯のプレート境界、地震・火山、安定地域の平野・山地、河川がつくる地形、海岸の地形、氷河地形、カルスト地形、乾燥地形と生活への影響、について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○大気大循環・恒常風・季節風のしくみと生活への影響、植生と気候の関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>
<p>評価方法</p>	<p>・定期考査(選択・記述)</p> <p>・授業中の小テスト</p>	<p>・定期考査(記述・論述)</p> <p>・グループワーク</p> <p>・classroom での課題</p> <p>・小テスト</p>	<p>・提出課題</p> <p>・グループワーク</p> <p>・学習の記録</p>

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目)
1学期	地図と地理情報システム(地球上の位置と時差・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類) 結びつきを深める現代世界(現代世界の国家と領域・グローバル化する世界)
2学期	生活文化の多様性と国際理解(世界の地形と人々の生活・日本の自然環境)
3学期	生活文化の多様性と国際理解(世界の気候と人々の生活・日本の自然環境)

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	1	年次	I 年次
使用教科書 (出版社)	帝国書院『明解 歴史総合』						
副教材等 (出版社)	帝国書院『明解歴史総合図説 シンフォニア 四訂版』						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

<p>わたしたちが生きる地域や文化圏、国家、世界には、さまざまな社会課題が存在する。しかしながら、グローバル化・情報化が急速に進み、変化がめまぐるしい昨今、それらの解決に向けて動き出すことはおろか、対峙することさえ難しい場合も多い。そこで、「歴史総合」では、現在の世界への理解を少しでも深めるため、より近似した「近現代」という時代の歴史に着目し、諸課題の形成過程や背景、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」による影響について、さまざまな視座から学ぶ。また、戦争／戦後、さらには科学史やジェンダー史に注目した授業も行う。</p> <p>主として講義形式をとるが、ICT を活用し、ペアワークやグループワークを取り入れ、対話的な学びになるよう留意する。平和で調和ある世界の発展に、みなさん自身が主体的に貢献するという意気込みを持ちながら、“historian”になったつもりで、果敢に取り組んでもらいたい。</p>
---

### 2. 学習の到達目標

<p>わたしたちが直面する現代的な諸課題と向き合い、その解決を未来の目標にすえ、これらの課題が形成された歴史的背景について理解を深め、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力を培う。その上で、グローバル化する国際社会に主体的に参画し、平和で民主的な国家および社会を形成するために必要な資質・能力を育成する。</p>
---

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>知識: 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能: 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p>	<p>現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
評 価 方 法	<p>定期考査 提出課題</p>	<p>定期考査 提出課題(各種パフォーマンス課題を含む)</p>	<p>提出課題(各種パフォーマンス課題を含む) プレゼンテーション等</p>

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目) ●の項目はおもに教科書の章題
1学期	●「近代化」への問い ●江戸時代の日本と結びつく世界 ●欧米で生まれる国民国家 ***** 1学期考査 *****
2学期	●産業革命による欧米とアジアの変化 ●日本における近代国家の形成 ●帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化 ***** 2学期考査 *****
3学期	●「国際秩序の変化や大衆化」への問い ●第一次世界大戦とその影響 ***** 3学期考査 *****

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	地歴公民	科目	地理総合	単位数	1	年次	Ⅱ年次
使用教科書 (出版社)	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)						
副教材等 (出版社)	新詳地理資料 COMPLETE2025(帝国書院)						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

「地理る」ことを楽しもう。国際社会を主体的に生きるために必要な能力は何か？それは「地理る」力である。情報に国境がなく、生産物の多くが外国製になり、食べるものも海外産が増え、もはや1つの国だけで需給を賄うことは不可能な世の中に私たちは生きている。しかし、情報を提供する人も、製造する人も、生産する人も、みなそれぞれの土地で生活している。だからこそ、1つの国で起きた事は、良いことも悪いことも他の国に波及して影響を及ぼしてしまう。したがって、今後はより一層地理を通して世界を知って物事を考えたり議論する能力が必要なのである。

### 2. 学習の到達目標

- ① 持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。
- ② グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する。
- ③ 地図や地理情報システムなどを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	○ケッペンの気候区分、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解している。 ○世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴、発展途上国・先進国の人口問題、人口移動と移民について理解している。 ○発展途上国の都市・居住問題、先進国の都市・居住問題について理解している。 ○自然環境や社会環境など	○ケッペンの気候区分、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候・植生と生活との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴、発展途上国・先進国の人口問題、人口移動と移民について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○発展途上国の都市・居住	○ケッペンの気候区分、熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の気候・植生と生活との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴、発展途上国・先進国の人口問題、人口移動と移民について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主

	<p>を反映して形成されてきた伝統的な言語・民族・宗教にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。</p> <p>○地震の種類と特徴，地域で異なる震災の被害，東日本大震災と防災の取り組み，過去の震災と防災の取り組み，火山の分布，火山の恵み，火山災害の特徴，火山の恵み・災害と共・火山灰と共存する地域の取り組みについて理解しており，地理的技能を身に付けている。</p> <p>○地域で異なる気象災害，都市化による水害の変化，台風による水害の課題と取り組み，大雪による積雪の影響と取り組み，災害の被害を軽減するための取り組み，被災地の自助・共助・公助，復旧・復興の取り組みについて理解しており，地理的技能を身に付けている。</p>	<p>問題，先進国の都市・居住問題について，多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>○地震の種類と特徴，地域で異なる震災の被害，東日本大震災と防災の取り組み，災害伝承碑や，古文書などからの災害の把握，火山の分布，火山の恵み，火山災害の特徴，火山の恵み・災害と共・火山灰と共存する地域の取り組みについて，多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>○地域で異なる気象災害，都市化による水害の変化，台風による水害の課題と取り組み，大雪による積雪の影響と取り組み，災害の被害を軽減するための取り組み，被災地の自助・共助・公助，復旧・復興の取り組みについて多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>○言語・民族や宗教にかかわる問題について，世界的な画一化の動きとの関わりについて，多面的・多角的に考察し，表現している。</p>	<p>体的に追究，解決しようとしている。先進国の都市・居住問題について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p> <p>○地震の種類と特徴，地域で異なる震災の被害，東日本大震災と防災の取り組み，過去の震災と防災の取り組み，火山の分布，火山の恵み，火山災害の特徴，火山の恵み・災害と共存する地域の取り組みについて，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p> <p>○地域で異なる気象災害，都市化による水害の変化，台風による水害の課題と取り組み，大雪による積雪の影響と取り組み，災害の被害を軽減するための取り組み，被災地の自助・共助・公助，復旧・復興の取り組みについて，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p> <p>○言語・民族や宗教にかかわる問題について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査(選択・記述)</li> <li>・授業中の小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査(記述・論述)</li> <li>・グループワーク</li> <li>・classroom での課題</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題</li> <li>・グループワーク</li> <li>・学習の記録</li> </ul>

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目)
1学期	生活文化の多様性と国際理解(世界の気候と人々の生活)
2学期	地球的課題と国際協力(人口問題・都市問題) 自然環境と防災(地震津波と防災・火山災害と防災・ ・自然災害への備え) 気象災害と防災
3学期	民族, 宗教(民族・宗教と民族問題)

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し, さらなる成長につなげる力の育成

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	1	年次	Ⅱ年次
使用教科書 (出版社)	帝国書院『明解 歴史総合』						
副教材等 (出版社)	帝国書院『明解歴史総合図説 シンフォニア 三訂版』						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

I年次の「歴史総合」に引き続き、〈いまここ〉の世界への理解を深めるため、より近似した「近現代」という時代の歴史に着目し、諸課題の形成過程や背景、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」による影響について、さまざまな視座から学ぶ。特に、歴史的に未解決のまま残された多くの課題に対し、たとえ当事者になれなくても、〈共事者〉として関わろうとする姿勢を育んでもらいたい。特に、昨年度に引き続き、戦争／戦後、さらには科学史やジェンダー史に注目する。

主として講義形式をとるが、ICTを活用し、ペアワークやグループワークを取り入れ、対話的な学びになるよう工夫する。平和で調和ある世界の発展に、みなさん自身が主体的に貢献するという意気込みを持ちながら、“historian”になったつもりで、果敢に取り組んでもらいたい。

### 2. 学習の到達目標

わたしたちが直面する現代的な諸課題と向き合い、その解決を未来の目標にすえ、これらの課題が形成された歴史的背景について理解を深め、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力を培う。その上で、グローバル化する国際社会に主体的に参画し、平和で民主的な国家および社会を形成するために必要な資質・能力を育成する。

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	知識: 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能: 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価 方法	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題(各種パフォーマンス課題を含む)	提出課題(各種パフォーマンス課題を含む) プレゼンテーション等

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目) ●の項目はおもに教科書の章題
1学期	●アジア諸国の動揺と日本の開国 ●近代化が進む日本と東アジア ●第一次世界大戦と日本の対応 ***** 1学期考查 *****
2学期	●国際協調と大衆社会の広がり ●日本の行方と第二次世界大戦 ●再出発する世界と日本 ***** 2学期考查 *****
3学期	●冷戦で揺れる世界と日本 ●多極化する世界 ●グローバル化のなかの世界と日本 ***** 3学期考查 *****

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成

教科	地歴公民	科目	地理探究	単位数	3	年次	Ⅲ年次
使用教科書 (出版社)	新詳 地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)						
副教材等 (出版社)	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) データブックオブザワールド 2026(二宮書店)						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

「地理る」ことを楽しもう。国際社会を主体的に生きるために必要な能力は何か？それは「地理る」力である。情報に国境がなく、生産物の多くが外国製になり、食べるものも海外産が増え、もはや1つの国だけで需給を賄うことは不可能な世の中に私たちは生きている。しかし、情報を提供する人も、製造する人も、生産する人も、みなそれぞれの土地で生活している。だからこそ、1つの国で起きた事は、良いことも悪いことも他の国に波及して影響を及ぼしてしまう。したがって、今後はより一層地理を通して世界を知って物事を考えたり議論する能力が必要なのである。エスチュアリー地形のように広い地理的視野をもって「地理る」楽しみを深化させていこう。

### 2. 学習の到達目標

- ① 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。
- ③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度を養う。

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<p>○村落・都市の発達, 大都市の形成と分布, 都市内部の機能と構造について理解している。</p> <p>○自然条件の影響を受けるとともに, 社会条件の変化に伴って変容してきた農林水産業の分布や発達には, どのような傾向や規則性がみられるかについて理解している。</p> <p>○食料の分配の世界的な偏りや, 飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解している。</p> <p>○エネルギーの種類と資源利用の変化, 国によって異なる電力構成, エネルギーの生産と消費の不均衡, エネルギー問題の解決に向けての取り組み, 鉱産資源の利用について理解している。</p> <p>○さまざまな製品を生み出し, 人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し, 現在はどうな産業分野や地域が中心となり, どのように変わろうとしているかについて理解している。</p> <p>○経済が発展し, 物やサービスへの需要が高まったため, 主力の産業となった第3次産業の現状はどのようになっているかについて理解している。</p> <p>○暮らしを支える貿易, 貿易の変化と国際分業の成立, 自由化する世界の貿易について理解している。</p> <p>○地誌学習において各地域における地域を構成するさまざまな事象を項目ごとに整理して理解している。</p>	<p>○村落・都市の発達, 大都市の形成と分布, 都市内部の機能と構造について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○農林水産業の分布や発達について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○食料問題に関して, その原因について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○エネルギーの種類と資源利用の変化, 国によって異なる電力構成, エネルギーの生産と消費の不均衡, エネルギー問題の解決に向けての取り組み, 鉱産資源の利用について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○工業および立地の変化に関して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○第3次産業の特色と変化に関して, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○暮らしを支える貿易, 貿易の変化と国際分業の成立, 自由化する世界の貿易について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <p>○各地域の系統地理的事象に関して, 類似する一般性や地域の特殊性を, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</p>	<p>○村落・都市の発達, 大都市の形成と分布, 都市内部の機能と構造について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。</p> <p>○農林水産業について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>○食料問題について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>○工業について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>○第3次産業について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>○暮らしを支える貿易, 貿易の変化と国際分業の成立, 自由化する世界の貿易、について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究, 解決しようとしている。</p> <p>○各地域の地誌的内容について, よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査(選択)</li> <li>・授業中の小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・classroomでの課題</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題</li> <li>・グループワーク</li> <li>・学習の記録</li> </ul>

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目)
1学期	村落・都市(村落と都市の立地 資源と産業(農林水産業・食料問題))
2学期	資源と産業(エネルギー・鉱産資源・資源エネルギー問題・工業・第3次産業) 交通・通信と観光, 貿易(貿易と経済圏) 現代世界の諸地域(東アジア, 東南アジア, 南アジア, アフリカ, ヨーロッパ, オセアニア)
3学期	現代世界の諸地域(南北アメリカ, 西アジア)

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成
- 他者に対する表現力や他者との協働性の育成
- 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得
- 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成
- 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成
- 自らの成長を認知し, さらなる成長につなげる力の育成

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3	年次	Ⅲ年次
使用教科書 (出版社)	帝国書院『新詳 世界史探究』						
副教材等 (出版社)	帝国書院『最新世界史図説タペストリー 二十四訂版』 啓隆社『新世界史要点ノート(応用編)』						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

<p>みなさん自身の生き方や社会のあり方を考えるには、〈いまここ〉だけでなく、人類の長い歴史の中で、どのような積み重ねのもとに〈いまここ〉があるのかを知る必要がある。また、歴史的に未解決のまま残された多くの課題に対し、たとえ当事者になれなくても、〈共事者〉として関わろうとすることが肝要である。〈共事者〉として、時空を超えた歴史的事象や人びとの営みに対する想像力を養うことで、多様性を尊重しながら異質な他者との相互理解を深め、グローバル化する現代世界や未来を切り拓く公民へと成長することが期待される。特に、戦争／戦後、さらには科学史やジェンダー史に注目した授業も行う。</p> <p>主に講義形式とするが、ICTを活用し、適宜ペアワークやグループワークを取り入れて対話的な学びとなるよう工夫する。また、各種資料の読解や論述を含む演習を行うため、主体的・積極的に学んでほしい。</p>
---

### 2. 学習の到達目標

<p>「歴史総合」の学習を通して身につけた資質・能力をもとに、世界の諸地域の歴史的事象や様相について、現代的な諸課題と関連づけながら、また、さまざまな資料を通して探究する。その際、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を、広い視野から考察する。歴史的思考力を培い、グローバル化する世界を主体的に担う資質を養う。</p>
--

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	世界の歴史的事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、世界の課題解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを説明し、それらを基に議論する力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して自国だけでなく、他国や他国の文化への理解を深め、それらを尊重することの大切さを自覚する。
評価 方法	定期考査 提出課題	定期考査 提出課題	提出課題 プレゼンテーション等

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目) ●の項目はおもに教科書の章題
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●古代文明の歴史的特質</li> <li>●諸地域の歴史的特質</li> <li>・西アジアと地中海周辺</li> <li>・南アジア・東南アジア</li> <li>・東アジアと中央ユーラシア</li> </ul> <p style="text-align: center;">***** 1学期考査 *****</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ユーラシア大交流圏の成立</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出</li> <li>●主権国家体制の成立と交易の拡大</li> <li>●環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生</li> <li>●イギリスの覇権と欧米の国民国家建設</li> <li>●世界の一体化の進展とアジアの変容</li> </ul> <p style="text-align: center;">***** 2学期考査 *****</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の一体化の完成とその影響</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>●結びつく世界</li> <li>●グローバル化する国際経済とその課題</li> <li>●地球世界の課題の探究</li> </ul>
スーパーサタディお よび補充授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界大戦の時代</li> <li>●戦後の国際秩序と冷戦</li> <li>●冷戦の展開と平和の模索</li> </ul>

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- |  |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成<br><input checked="" type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得<br><input checked="" type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成<br><input type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成<br><input type="checkbox"/> 自らの成長を認知し、さらなる成長につなげる力の育成 |
|--|

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	年次	Ⅲ年次
使用教科書 (出版社)	『日本史探究』(実教出版)						
副教材等 (出版社)	『日本史のライブラリー』(とうほう) 『詳述 日本史史料集』(実教出版)						

### 1. 担当者から生徒へのメッセージ

歴史学とは自己認識の学問です。自分の存在を時間の流れの上に措定する歴史意識を育むとともに、歴史的事実の選択的利用、文脈の無視による切り取り、現在の価値観の押し付け、単純化・神話化など近年よく見られる「歴史の誤用」を見極める力をつけてほしいと強く願っています。事実を一面的に決めつけるのではなく、その事態に生きた人間に寄り添いつつ、同時に、多様性と統合性の観点から客観的に歴史を共に見ていきましょう。歴史を通して、今いる自分と社会・世界について考えていきましょう。

### 2. 学習の到達目標

- (1) 具体的な資料・史料を読み解きながら基本的な歴史的知識を習得し、さらに歴史的事象を概念化することで、歴史の大きな流れと時代の転換点を把握する。
- (2) 様々な国や地域の人々との交流の中で成立した日本の社会・文化を学習し、世界史の中の日本について認識することで、歴史的問いを発見し、現代的な問いに結び付けて理解する。
- (3) 歴史的思考力を養うための方法論を身に付け、歴史学的手続き論理に基づいて時代を解釈し、概念化できる。

### 3. 評価の観点と評価方法

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	基本的な歴史事項と歴史事象の知識を理解できているか。	基本的な史料とデータに基づいて、論理的に思考し説明することができるか。	歴史的テーマについて、自ら概念化して考察し、表現することができるか。
評 価 方 法	定期考査を利用して、基本的な知識の習得と史料の読み取りの技能について基準に達しているか評価する。	定期考査や課題提出において、限られた字数の中で歴史的観点から論理的な論述ができているかを評価する。	・適宜課すレポートで、自ら歴史的問いを設定し、歴史的事象を解釈できているかを評価する。 ・授業に取り組む姿勢や出欠・遅刻状況を考慮する。

#### 4. 学習の活動

学期	学習内容(単元・項目)
1学期	I. 概説ー時代とは何か II. 古代・中世の日本と東アジア 1. ヤマト政権の成立と古墳文化 2. 律令国家の形成 3. 古代の国家・社会の変容 4. 荘園公領制の成立と院政 5. 中世の国家・社会の展開と変容
2学期	III. 中世・近世の日本と世界 6. 東アジア社会の変容と天下統一 7. 幕藩体制の展開と近世の文化 8. 近世の国家・社会の変容 9. 近代国家の成立
3学期	IV. 日本の近代と戦争 10. 近代日本の国家・社会と戦争 11. グローバル化の中の現代日本
通年主題	A. 民俗・宗教とは何か(歴史事象の調査) B. 国家とは何か(歴史事象の概念化) C. 大衆社会とは何か(歴史の解釈・説明の方法)

#### 5. 科学のもり(SSHプログラム)との関連

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 科学的な探究方法の習得と科学的な思考力の育成<br><input checked="" type="checkbox"/> 他者に対する表現力や他者との協働性の育成<br><input checked="" type="checkbox"/> 異文化理解の形成と国際的な視野の獲得<br><input checked="" type="checkbox"/> 文理や教科の枠を越えて転移可能な理解の形成<br><input type="checkbox"/> 自ら設定した目標をやり遂げようとする責任感の育成<br><input type="checkbox"/> 自らの成長を認知し, さらなる成長につなげる力の育成 |
|--|